

第22回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

〈ターゲット型〉：>尼崎市老人クラブで活躍されている皆様と

と き	平成27年10月20日（火） 午後2時～3時30分
と ころ	大庄支所 コミュニティルーム（尼崎市大庄西町3-17-11）
参加者等	参加者 27人 市長ほか関係者 11人 合計 38人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長からの説明

【ひと咲きまち咲きあまがさき 尼崎市の人口ビジョン（素案）、総合戦略（素案）】について、
パワーポイントを利用し説明

- ・ 本市の人口については、1970年の55万人がピークとし、その後減少傾向となり2015年には45万人で概ね10万人減となっている。将来推計としては、2040年に34万人、2060年には25万人に、減少すると推定される。
- ・ 人口構成としては高齢化が進み、2040年に65歳以上36.3%、75歳以上が18.9%となり、全国平均に追いつく見込みとなる。
- ・ 本市の出生率は20歳代の若者が兵庫県や全国レベルより上回っている。
- ・ 20歳代の転入が多い反面、子育て世帯である30歳代及び5歳未満の子どもが、東京都をはじめ、近隣の西宮市や伊丹市への転出が多い。
- ・ 本市は近隣市と比較し、一人暮らし世帯の比率が高く、中でも男性の一人暮らし世帯が目立つ。これは、病院や買い物をする店も近く、便利で住みやすい街であることを示している。
- ・ 本市の人口ビジョンとして、課題であるファミリー世帯の転出超過を5年後に半減し、希望出生率を2.07%まで回復することを目指す。

3 市民と市長との対話

- ・ 大庄地区は非常に高齢化率が高く、子ども時代は同居しているが、大きくなると市外へ出るという事で、人口が減少している。公共施設の跡地利用について前向きに考えてほしい。
- ・ 子どもを育てやすいまちづくり、若い人が定着しやすいまちづくりをしてほしい。
- ・ この地域には建物が非常に少なく、趣味の講座や老人クラブの会合で地域学習館（公民館分館）を利用しているが、どんな形でもいいから残して欲しい。

⇒跡地利用については考えている。全部の跡地が住宅になるとは限らないが、若い人達が便利で暮らせるようなことを考えていく。公民館の分館は、現在、地域学習館という形になっているが、教育委員会の所管であるため、どのような形で残すのがいいのか難しいところである。

最近、空家も増えている。土地の持ち主と家の持ち主が異なるなど複雑な場合があり、現在、調査

中である。学校施設については、避難所となる小中学校に3年かけて空調設備を整備していく。

- ・ 西小学校と若葉小学校の統合が決まり、新しい校名もちゃんと決まっていると聞いている。武庫川町や元浜町の避難所は西小学校に指定されているが、建替え時はどうなるのか。また、工事期間は3年くらいか。

⇒西小学校で新校舎を建設するので、工事期間中は若葉小学校で授業します。その間、西小は出入り禁止となるため、避難所としては利用できません。工事期間中の対応については、確認します。普段から、学校と地域が情報を共有する状態がいいなという事例ですね。

⇒最近、市から「いきいき百歳体操をお願いします」とか、県からも「体操をしてください」と体操しているところに補助金が出ています。老人クラブへは、国・県・市で補助金を出しています。

- ・ 東大島で役員をしているが、11 町会のうち老人クラブを持っているのが4。昔は7つあったが、老人クラブ助成金申請が難しいなど、会長のやり手がいない。老人クラブは地域の方々を知っているため、防災面でも役に立つと考えている。総会で老人クラブの大切さを説明するが、一向に進歩がない。

⇒老人クラブだけでなく、働き方も多様になっているからか、他も同様に役員のなり手がいない。老人クラブへの補助金の出し方を人数の規模に応じて区切り補助金の額を変えていくとかしないと、補助金全体を増やすことは難しい。出し方を変えて、みんなが少ない負担で互いの活動を支えるような見直しの余地はあると考える。

⇒申請を簡素化することは可能だが補助金も公金(税金)であり、老人全員が入っているわけではない。

- ・ 県知事に会った時に、老人クラブや社協の定額補助なので、手続きを簡単にするよう話していた。65歳以上のうち3分の1は入会していない。市役所や学校で働いていた人が退職したあと、是非、地域で活動してほしい。

⇒本市の職員も急激に若返っているので、是非地域で育てて欲しい。若手の職員を増やそうと考えており、地域で勉強し、本庁で研究と専門性を積んで仕事をしてもらおうことを考えている。

- ・ 社協の加入率は、市全体でどれくらいなのか。

⇒全体で57%、約6割です。一番高いのが大庄地区で8割、武庫地区で3割。

武庫地区は昔から低いのが地域の特性である。社協の加入率というのは、町会費を払っているかいないかのカウントであって、8割が地域活動していることではない。武庫地区で加入者は3割だが、子育てサークルや地域で活動している団体は多く、そういう意味で地域が活発である。

加入率の違いによってお金のあり方や会の運営の仕方など地区により違って良いと考えている。

- ・ 社協の加入率が低い武庫地区で、防災訓練の準備会で連絡網を作っている。訓練の時はそれでいいが、本当に災害があったときには、地域住民に伝達しないといけない。

社協加入者しか連絡網がないため、いざという時は避難できなくなる。わがままで加入しないのではなく、自治会に入りたいと地域に相談しても、その人が加入していないため結局入れなかったということも聞いている。

⇒組織に入っていない人も、いざという時の助け合い、防災を考えていく必要がある。各地域には、社会福祉協議会や地域包括支援センターがあり、現在、連携していくための協議中である。

- ・ 武庫地域では、老人クラブの定款を変えて自治会関係なく誰でも入れるようにした。

⇒市全体の人口が減っていくので、建物は整理していく必要がある。一方で人を育てないといけない。市役所の若手職員も同様である。尼崎に住み、まちづくりに関わり、机上の勉強だけでは得られない経験をすることが大切だと考えている。

- ・ 火事の時に、町会に入っていない人も地域の福社会館を使ってもらっている。そんな非常時に町

会の加入・非加入は関係ない。しかし、平常時には手を差し伸べない。

⇒阪神淡路大震災もあったし、東日本大震災の時もそう。いざという時は助け合いがいる。本当は、いざという時に困らない為にというのを1つのきっかけとして。普段からどうやって地域を繋がりやすくするか。両方の要素がある。

⇒社会福祉協議会でいう意味で言うと、尼崎市は歴史的に特徴があり。他の町とは異なる。

元々、町内会という地縁で繋がる自治会・町内会は全国的にあったが、戦争に負けた時GHQに解散させられたが、尼崎市は屈しなかったと聞く。社協を解散せず、現在まで引き継いでいる経緯がある。そこが、他市の自治会と異なる。

⇒自発的に自治会で集めた会費で行っている事業は、町会の会員のみ還元されるべきであるが、税金を使って行う事業は、会員以外も含めた市民全てに分け隔てなく行うものである。

⇒今後、85歳以上の方が増えてきた時いろいろなことが起きてくる。

本市では、生活習慣病予防に全国トップクラスで取組んできた。最近の研究で、生活習慣病予防は認知症予防に効くとわかったので、それを進めて認知症予防に力を入れていきたい。

みんな安心して地域で暮らせることを考えると、一人暮らしが多い町であり、様々な仕組みや集まる場所が欲しい。

- ・ 集まる場所として、学校開放では運動場や体育館は使えるが、教室は無理なのか。昔は、1学年10クラスぐらいあったが、現在は3、4クラス。空いている教室があると思うので、そこを使うことが出来ないのか。

⇒学校ごとに、セキュリティ・警備の問題がある。

例えば、耐震工事により全面改修した学校は、図書館などいくつかの部屋だけ空けて残りは閉めるなど、地域で使えるようにハード面で考えている。モデル的にいくつかの学校でやっていきたい。

⇒新しく建て替えた学校に空き教室は作れない。国が、現在の子ども的人数で作る分しか補助金を出さない。しかし、子どもが減ってくれば教室が空いてくる。これについては教育委員会と連携しないといけない。

- ・ 地域のまつりで、大勢の来賓の方が挨拶するが、老人クラブの会長が挨拶することがない。老人クラブが頑張っているところを見てほしいので挨拶できないか。

⇒兵庫県では、75歳ぐらいまでを現役世代と考えている。元気で地域を担う世代として頑張ってもらいたい。

- ・ 若い人が入ってくるが、子育て世帯が出て行くことを何とか食い止めたい。
- ・ 昔、市の南部で働いていたが、大手企業は住宅手当もあり良い所へ引越していくが、下請けで働いているものは、収入が少なく、地元尼崎に残った。

⇒西宮には山がある、高級住宅街もある。尼崎にはなく、単身高齢者が多い。

公共施設は大分減らさないといけないし、みなさんは家に引きこもらずに元気に外へ出てほしい。

- ・ 市民農園を申し込んでいるが、何回申し込んでも当たらない。北の方は数あるが南の方は少ない。

⇒市民農園は倍率が高く当たるのが難しい。もっと増やして欲しいと思いますね。

○ 今日は、たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

これからも、皆さん、家に引きこもらないで元気でいてください。

以上

<対話の中でた質問に対する担当課の回答>

学校工事中の避難のあり方について

「西小学校と若葉小学校の統廃合で、現在、避難所として指定されている西小学校は建替え時にはどうなるのか。」

【回答：尼崎市防災対策課】

- 避難所には、大きくは二種類、①「指定避難場所」と②「津波等一時避難場所」がございます。
①の「指定避難場所」は、災害により住居が被害を受けるなどにより一定期間滞在する場所であり、②の「津波等一時避難場所」は津波や洪水が発生した場合などに一時的に避難できる場所（施設）となっています。
- 工事に伴い現在指定しています西小学校は①の指定避難場所に使用できない期間が発生いたします。その間につきましては、別の避難所に避難いただくこととなります。
現在、近隣には次の学校がございます。
 - ・若葉小学校は①の指定避難場所
 - ・成徳小学校は①の指定避難場所、②の津波等一時避難場所を兼ねています。
 - ・大庄小学校は現在耐震化の工事中（平成28年3月まで）となっております。
- ②の津波等一時避難場所につきましては、近隣の民間のマンション等を数箇所指定させていただいております。（尼崎市防災ブックや市のホームページを参照して下さい。）
- なお、西小学校の工事中期間が明らかにされました際には、指定避難場所につきましては、尼崎市のホームページにて、その工事期間や問い合わせ先を情報発信させていただく予定でございます。

以 上